十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②－37	実施計画番号	44	事業開始年度	平成25年度
事務事業名	子ども司書養成講座			事業終了年度	平成28年度
担当課名	市民図書館			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等			関連事務事業		
背景や経緯等	市内の小学校4年生～6年生を対象に養成講座を実施する。				
事務事業の目的	図書館業務の体験を通して司書の知識や技術等を学び、読書の楽しさや素晴らしさを広め、本と人との橋渡しを手助けする読書活動推進の担い手として、子ども司書を養成する。				
実施状況	11月8日，14日，21日，28日，12月5日(5回)　参加者18人				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	6	1	1
	活動日数(日)	10	15	15
	人件費(千円)	2,160	540	540
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	160	0	0

【指標】

活動指標	活動指標名①		子ども司書養成講座のプログラム回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回数	4	5	5
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		子ども司書養成講座の参加者数			
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		人数	目標値	20	20	20
			実績値	18	18	
			達成度(%)	90%	90%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			目標値			
			実績値			
			達成度(%)			

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

		ポイント	検証（選択）	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	①	**市民ニーズ等から見る妥当性** 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 ／4 子ども読書推進計画の中でも実施する事業であり，また「子ども司書」運動は全国的な動きでもあり市民図書館が継続して実施する必要がある。
	②	**実施主体である妥当性** 行政が実施することが妥当か（民間と競合していないか）	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 ／6 成果指標，活動指標も順調に推移しており，事業の見直しの余地はない。
	④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤	**事務事業の見直しの余地** 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	⑥	**事業費の削減の余地** 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 ／6 現在、事業予算をかけずに実施しており，効率性は高いと考える。
	⑦	**他の事務事業との統合・連携** 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧	**民間委託等** 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨	**受益の偏り** 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 ／4 当市民図書館が市内各小学校を通じ、参加者を公募をしているため適正である。
	⑩	**受益者負担の見直しの余地** 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
				現在の適性		20 ／20	改善の余地 0 ／20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性（選択） ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

第3次子ども読書活動推進計画の中で取り組む事業であり，子どもが本と出会い，読書に親しむ機会として有効なことから継続して実施したい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

各学校との連携を密にしながら，参加者を増やし読書に親しむ子どもたちを増やしていきたい。